



「なに、何してるのこれ!？」

『おーいいんちよのスギナミちゃんじゃーん』

もろ



『あ、あの……』

カマッ



『ウチらで助けてあげて  
たんたよねー!』

おま

『よかうたねオタク  
愛しのスギナミさんが  
助けてくれるってよ!』



『オタクくんが  
調子悪いみたいだからさ』

『あーなんかへんな想像してる  
かもしれないけど  
別にイジメてるわけじゃないよ!』



『そんじゃ  
あとよろしくー!』





『お、落ち着いて...?』

さあ...



『お、おちんちんからっそのつ...  
で、射精ちゃうと思うからっ  
だからっそのつ、ねっ』



『あ、ああつ...  
よ、よくないよほんとにっ』



『お願いします！  
スギナミさんっば、ぼくを  
助けると思って、その、  
いいいですかっ！』

『えっだ、だめだよっ  
こ、これ以上は、  
ど、友達じゃなくなっちゃうよっ』



『スギナミさんっも、もう我慢の限界です……っ』

『だめ、ぜったいだめ……  
（学校なのにちくび舐められて  
発情しておまんこできあがっちゃった）』

『そんなおっきいの  
ぜったい入らないよ……  
（あんなの入ったら  
ゼツタイすごいのくる）』

















